

「外構、塀などにもひと工夫」編

シリーズ「ご存じですか？景観計画」。今回は、塀や壁など敷地の工夫について考えましょう。

【敷地の外構・囲障】

宅地の外構・囲障（塀・柵など）にはどんなものを用いられているでしょうか。アルミなどの金属フェンス、ブロック塀などで敷地を仕切っているものも多くみられますが、いけがきや自然素材を用いると、豊かな環境が形成されます。



▲いけがき、自然素材を取り入れた囲障

もし、スペースに余裕がないときや囲障を作ることに抵抗があるときは、塀を設置しないで、空地を花壇風に緑化しても良いでしょう。無機質なブロック塀

のみの外構は、緑豊かな住宅地の町並みに調和しません。そして防犯や防災の観点からも推奨できません。

敷地内にある駐車場にも緑化を施すと、味気なさが軽減されます。



▲敷地を緑化した外構

このように、用いる素材や限られたスペースでも工夫次第で潤いのある外構が生まれます。

【敷地の緑化に】

シンボルツリーを植栽

敷地の前面にシンボルツリーを植栽すると、通りに対して潤いのある空間を創出できます。敷地の緑化に使用する樹種は、周辺景観と調和し、四季の移ろいを感じさせるものにするとう

節感を演出できます。また、各宅地のシンボルツリーが連続すると、街路に木漏れ日が落ちる公園のような町並みになります。



▲シンボルツリーの例

【町の緑の施策】

町では、いけがきの設置、シンボルツリーの植栽について、補助金の制度を設けて助成しています。交付要件等は担当課までお問い合わせください。※いずれの場合も、事前相談が必要ですが、事後の申請はできませんのでご注意ください。

【より良い景観形成を目指して】

大磯らしい景観を形成するためには、町民のみなさんや事業者、町が一緒になってまちづくりを進めていかなければなりません。景観施策に対するご理解、ご協力をお願いします。

◎問い合わせ

都市計画課 ☎内線221

「大磯そぐる歩き」

大磯町はどの様な顔をしている町でしょうか。

幾多の著名人の別荘跡地を抱えた史跡の残る町の顔だけでしょうか。

実は緑に囲まれた、素晴らしい田園、里山の顔を持った町でもあるのです。

今回の「大磯そぐる歩き」は、この里山風景の現状を訪ねてみたいと思います。

ここに掲載した写真は国府地区の神揃山（国府祭の座間答の行われる所）と祇園塚山（山裾に



▲残り少ない谷戸の水田（国府本郷）

は真勝寺がある）の間にある小さな「谷戸」の風景です。

一昔前は、手入れの行き届いた美しい水田の棚田が並んでいたと思われませんが、現在は下から宅地化が進み、上からは雑草が生い茂り、二枚の水田を残すばかりです。

この谷戸の神揃山側には舗装された農道があり、その先の谷戸の水源近くからは雑草が茂った一人が通れる山道になり、星椋学園の西側を通り山頂に続いています。この山頂周辺は奈良時代の「万台海軍団旧跡」の一部になっており、散歩道にもなっています。

西部地区には数箇所の谷戸がありますが、皆似た状況で、寂しい限りです。農業従業者の減少・高齢化により、ますます荒廃地が拡大していくと思われま

すが、関係者のご協力でも、一箇所でも多く緑豊かな美しい棚田が広がる谷戸が維持できないか願っています。（景観応援団・浅見）

◎問い合わせ

都市計画課 ☎内線221